



学校便り

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> Eメール kanai-es@sado.ed.jp

佐渡市立金井小学校 平成28年11月25日 第8号

「かしこい金井っ子」を願って

校長 羽二生 裕

朝晩の冷え込みが厳しくなり、初霜の知らせも届くようになってきました。

11月の全校朝会では、「かしこい子になるために」という話をしました。要旨は次の通りです。「学校には節目節目に大きな学校行事があります。2学期には文化祭がありました。文化祭での学習発表会は各学年、とても工夫された素晴らしい内容でした。この大きな体育館で、〈相手意識（誰に）〉 お家の人や地域の皆さに、〈目的意識（何のために）〉 自分たちが学んできたことや体験してきたことを分かりやすく伝えるために、〈場面意識（どのように）〉 大きな声で恥ずかしがらないで堂々と発表しました。これらの3つのことをいつも意識して、学校で学習したり運動したり、家で生活したりすることが、『かしこい金井っ子』になるための秘訣です。」という内容でした。



これらの「3つの意識」は、子どもたちがこれから生きていく上で最も大切なものです。教室で子どもたちが学習をする時には、必ず相手を意識し学習します。例えば、自分が発表する時には、教室の友達や先生を意識し発表します。聞く時も相手を意識し聞いています。また、学校での学習や運動には、必ずそのめあて（目的）があります。例えば、子どもたちの大好きなドッジボールをする場合に

は、素早くボールをよけたり、ボールを投げたり、ボールを捕ったりするというめあて（目的）があります。ところが、子どもたちにとって、理解しているようで理解しにくいのが場面意識です。自分のいるその場で（その空間で）、周りを理解しどのように行動・実践すればいいのか・・・？子どもたちにとってはなかなか難しいものです。子どもの発達段階によっても、その場面意識は違ってきます。また、周りにいる大人の判断・考えによっても変わってくるでしょう。それだからこそ、学校や家庭で子どもたちに教えてあげなければいけません。例えば、メディア・コントロールがその一例になります。

これらの「3つの意識」を、自分で考え行動できる子どもになって欲しいという願いを込めて、全校朝会で子どもたちに話をしました。教えてあげると、自分から考え動ける金井小の子どもたちです。私が一年前の全校朝会で話をした「①靴のスピータ（高学年に）②あいさつサンドイッチ（中学年に）③廊下の右側歩行（低学年に）」お願いしたことが、今ではどの学年の子どもたちも意識できるようになってきました。子どもですから時にはできない時もあります。しかし、金井小の子どもたちは、物事を素直に受けとめ、やりぬくすごいパワーを秘めています。我々教師が感じたことを、子どもたちに語りかけると、しっかりと受け止めてくれる子どもたちです。校長として日々、嬉しく思う場面が多々あります。これらのことは、保護者の皆様の御理解や御協力のお陰であり、地域の皆様からの温かい御支援の賜であると感じております。今年度の金井小の教育活動も残すところ四ヶ月となりました。これからも子ども同士のかかわりを大切に「知・徳・体のバランスのとれた教育」を進めていきます。皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。